

## チーム医療リテラシー

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 相澤 文恵 教授		
担当講座・学科(分野)	全学教育推進機構、人間科学科心理学・行動科学分野、医療安全学講座、緩和医療学科、地域包括ケア講座、岩手医科大学附属病院、災害医学分野、人間科学科体育学分野、泌尿器科学講座、口腔医学講座予防歯科学分野、口腔医学講座関連医学分野、口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野、薬物代謝動態学分野、薬学教育学分野、看護専門基礎講座		
担当教員	田島克巳機構長、相澤文恵教授、肥田圭介教授、木村祐輔特任教授、岩淵光子特任准教授、佐藤悦子看護部長、眞瀬智彦教授、佐々木亮平助教、高田亮特任准教授、岸光男教授、千葉俊美教授、森川和政教授、小澤正吾教授、奈良場博昭教授、遠藤龍人教授、医学部教員、歯学部教員、薬学部教員、看護学部教員、教養教育センター教員		
対象学年	3	区分・時間数	講義 18 時間
期間	前期		

### ・学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Inter Professional Education)の一環として、初年次での、「多職種連携のためのアカデミックリテラシー（問題解決型学習を含む）」での経験を踏まえ、3年次では全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性を理解することを目的とする。これまでの教養教育・専門教育での知識や経験を生かし、患者の健康段階に応じたサポート体勢がどのような職種によるチームによって形成されるのか、また、緩和ケアにおいて患者の痛みを全人的に理解するためにどのような検討が必要なのかを、講義と医学・歯学・薬学の学生によるアクティブラーニングを通じて学修する。また、立場の異なるメンバーが集まったグループにおいて、一つの判断や結論を出すワークを行うことで、他者の意見を傾聴し、他者の価値観に配慮したうえで自己の意見を主張するスキルを学修し、チーム医療に必要なコミュニケーションの在り方や方法を理解する。

### ・教育成果（アウトカム）

専門教育途上にある学生が、他の学部学生とともに多様な場面に応じた多職種の役割について学び、討議することで、全人的医療を実現するうえでの多職種連携の必要性に気付く。また、防疫においてそれぞれの職種で活動すべきことと多職種連携の必要性について気付くとともに、一般市民の感染予防意識の啓発のための必要事項を説明できる。医療機関における感染症患者のケアについて理解し、多職種連携業務で注意することを説明できる。緩和医療における患者の全人的苦痛とそれに対応する医療職を知ることによって、命を預かる医療人としての高いモラルと患者や他の職種を尊重する意識を身につける。これらのことにより、今後の医療知識獲得や臨床実習実践をより一層意欲的に行う覚悟を持つ。アクティブラーニングを通して、立場の異なるメンバーの意見を傾聴し、また、自分の意見をわかりやすく説明することを学修し、多様な価値観を尊重し、他者を畏敬する謙虚な気持ちを維持することができる。あわせて、生涯にわたってコミュニケーション能力をブラッシュアップするための要点をつかむ。

（ディプロマ・ポリシー：1,2,4,6）

・到達目標 (SBOs)

1. 医学・歯学・薬学、看護学のそれぞれの立場で、医療安全、災害医療、緩和ケア、防疫の問題を考え、全人的医療を実現する誠の医療人として何をなすべきかを見定めることができる。
2. 医学・歯学・薬学、看護学のそれぞれの立場でチーム医療について考えることができる。
3. 3 学年までに学修した知識を基に、多様な場面に関わる医療専門職の名称と役割を理解し、問題解決におけるチーム医療の必要性を説明することができる。
4. 防疫における多職種役割を説明することができる。
5. 自分の価値観や判断の仕方を再認識し、他者の価値観を理解することができる。
6. グループで意思決定する際のプロセスとグループダイナミクスについて説明することができる。

・講義日程

(矢) 大堀記念講堂他

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
5/18	火	3 ~ 5	全学教育推進機構	田島克巳全学教育推進機構長	講話：多職種連携教育について 1.我々の目指すチーム医療について説明できる。
			心理学・行動科学分野	相澤 文恵 教授	カリキュラム説明 1.カリキュラムの目的と受講方法を説明できる。  事前学修：シラバスをよく読み、本科目の到達目標と講義内容を確認する。
			医療安全学講座	肥田 圭介 教授	医療安全講義 1.医療安全について、成り立ちとその経緯、目的、意義について説明できる。 2.安全な医療の提供に対するチーム医療の必要性を説明できる。 3.チーム医療遂行のために必要な各職種の役割を理解し実践できる。  事前学修：最近の医療事故事例について調査する。 事後学修：現場で行われている医療安全対策を学び、その目的を理解する。 緩和医療論講義
			緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	

			地域包括ケア講座	岩淵 光子 特任准教授	<p>1.緩和ケアについて、歴史、理念、意義について説明できる。  2.全人的な“痛み”を理解し説明することができる。  3.がん治療に関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、MSW、臨床心理士ほか)それぞれの役割について理解し説明することができる。</p> <p>事前学修：緩和ケアについて、教科書該当箇所を熟読する。  事後学修：生命を脅かす疾患に罹患した患者や家族が抱える全人的苦痛を理解し、チーム医療で支援することの重要性を確認する。</p> <p>地域包括ケア講義  1.予防からリハビリまで、患者と家族を支える多職種とその役割について説明できる。  2.地域における多職種と連携・協働する場を理解し、各専門職の役割を説明できる。</p> <p>事前学修：地域で多職種が関わり支援している内容をホームページや新聞記事等で調べておく。  事後学修：地域で暮らす人々の健康と生活を支える視点から、各職種の役割を理解する重要性を確認する。</p>
5/25	火	3 } 5	岩手医科大学附属病院  心理学・行動科学分野	佐藤 悦子 看護部長  相澤 文恵 教授	<p>病院内における多職種連携  1.臨床現場において連携する多職種とその役割について説明できる。</p> <p>iPEG 講義  1.医療における多職種連携の必要性を説明できる。  2.iPEG の使用法を説明できる。  3.医療にかかわる多職種の名前と役割を概説できる。</p> <p>マインドマップ講義  1.マインドマップの基本構造について説明できる。  2.マインドマップの作成法について説明できる。</p>

				<p>3.思考プロセスをマインドマップで表現し、整理することができる。</p> <p>事前学修：医療、保健、福祉に関わる職種を調べておく。 事後学修：学んだ多職種の名前と役割を確認し、次週からのワークショップに備える。</p>	
			<p>心理学・行動科学分野 人間科学科体育学分野 泌尿器科学講座 予防歯科学分野 関連医学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 薬物代謝動態学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター</p>	<p>相澤 文恵 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 特任准教授 岸 光男 教授 千葉 俊美 教授 森川 和政 教授 小澤 正吾 教授 奈良場 博昭 教授 遠藤 龍人 教授 医学部テューター (※1) 歯学部テューター (※2) 薬学部テューター (※3) 看護学部テューター (※4) 教養教育センターテューター (※5)</p>	<p>ワークショップ1 (多様な場面に関わる専門医療職の名称、役割と多職種連携の理解)</p> <p>1.医療に関わる多職種の名称とその役割の儀容を説明することができる。</p> <p>2. iPEG ディスカッションカードに示された様々な場面において必要とされる患者・家族へのサポートを列挙することができる。</p> <p>3.2 であげられたサポートに主体的に関わる専門職を列挙することができる。</p> <p>4 事例に関わる多職種の役割と職種間の関係をマインドマップにまとめることができる。</p> <p>5.グループワークの結果を発表し、他グループのメンバーと討議できる。</p> <p>6.ファシリテーター、テューターからのフィードバックを受け、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。</p> <p>事前学修：教科書をよく読み、演習の手順を確認しておく。 事後学修：医療に関わる多職種 (医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の職種) が、多様な場面において患者、家族に果たす役割を確認する。</p>
6/1	火	3 5	<p>災害医学分野 心理学・行動科学分野 人間科学科体育学分野 泌尿器科学講座 予防歯科学分野 関連医学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野</p>	<p>真瀬 智彦 教授 相澤 文恵 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 特任准教授 岸 光男 教授 千葉 俊美 教授 森川 和政 教授 小澤 正吾 教授</p>	<p>災害医療・防疫講義</p> <p>1.災害医療 (CBRNE) について説明できる。</p> <p>2.防疫について成り立ち、目的、方法について説明できる。</p> <p>3.感染蔓延地域において、医療者がやるべきことを説明できる。</p>

			<p>薬物代謝動態学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター 医学部他</p>	<p>奈良場 博昭 教授、 遠藤 龍人 教授 医学部テューター (※1) 歯学部テューター (※2) 薬学部テューター (※3) 看護学部テューター (※4) 教養教育センターテューター (※5) WS アドバイザー (※6)</p>	<p>事前学修：災害医療（特に CBRNE 災害）、防疫について調べておく 事後学修：災害医療、防疫についてそれぞれの職種の果たす役割を整理する。</p>
			<p>体育学分野</p>	<p>佐々木亮平 助教</p>	<p>災害支援における多職種連携講義 1.医療における多職種連携を災害支援（受援）の例として説明できる。  事前学修：公衆衛生の視点を持って、過去の災害支援（受援）事例を調査する。 事後学修：有事の災害活動の実例から職種の役割を解放した協働について学び、平時の多職種連携について理解を深める。</p>
6/8	火	3 4	<p>心理学・行動科学分野 人間科学科体育学分野 泌尿器科学講座 予防歯科学分野 関連医学分野 小児歯科学・障害者歯科学分野 薬物代謝動態学分野 薬学教育学分野 看護専門基礎講座 医学部 歯学部 薬学部 看護学部 教養教育センター</p>	<p>相澤 文恵 教授 佐々木 亮平 助教 高田 亮 特任准教授 岸 光男 教授 千葉 俊美 教授 森川 和政 教授 小澤 正吾 教授 奈良場 博昭 教授 遠藤 龍人 教授 医学部テューター (※1) 歯学部テューター (※2) 薬学部テューター (※3) 看護学部テューター (※4) 教養教育センターテューター (※5)</p>	<p>代表者発表会 1.各会場から選出されたチームの発表を聞き、その内容について討議することができる。 2. 討議に参加することにより、医療における多職種の役割と多職種連携の必要性について説明できる。  事前学修：発表会の討議に参加できるようにワークショップで取り上げた事例について復習しておく。 事後学修：患者が家族とともにその人らしく生きるために、医療チームを構成するメンバーそれぞれがどのような役割を果たし、協働すべきかについて確認する。</p>
6/8	火	5	<p>心理学・行動科学分野</p>	<p>相澤 文恵 教授</p>	<p>講演：「多職種連携」～医療の現場から～ （村上雅彦先生・大船渡病院） 1.医療現場における多職種連携の現状を説明できる。</p>

※1

所属	担当教員
感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授
医学教育学分野	田島 克巳 教授
情報伝達医学分野	近藤 ゆき子 講師
衛生学公衆衛生学講座	田鎖 愛理 講師
医学教育学分野	相澤 純 特任講師
腫瘍生物学研究部門	柴崎 晶彦 助教

※2

所属	担当教員
発生物・再生医学分野	池崎 晶二郎 助教
病態生理学分野	成田 欣弥 講師
細胞情報科学分野	横田 聖司 助教
分子微生物学分野	石河 太知 講師
病態制御学分野	田村 晴希 講師
法歯学・災害口腔医学分野	熊谷 章子 准教授

※3

所属	担当教員
創薬有機化学分野	辻原 哲也 助教
天然物化学分野	浅野 孝 助教
生体防御学分野	錦織 健児 助教
臨床医科学分野	高橋 巖 助教
薬剤治療学分野	手塚 優 助教
情報薬科学分野	氏家 悠貴 助教

※4

所属	担当教員
看護専門基礎講座	塚本 恭正 准教授
成育看護学講座	遊田 由希子 特任准教授
共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教
看護専門基礎講座	一ノ渡 学 講師
成育看護学講座	最上 玲子 講師
共通基盤看護学講座	武田 邦子 講師
共通基盤看護学講座	伊藤 奈央 講師
地域包括ケア講座	高崎 邦子 講師
地域包括ケア講座	館向 真紀 特任講師

※5

所属	担当教員
哲学分野	遠藤 寿一 教授
法学分野	廣瀬 清英 講師
心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 講師
物理学科	小松 真 講師
数学分野	江尻 正一 教授
数学分野	長谷川 大 助教
情報工学分野	高橋 史朗 教授
英語分野	柳谷 千恵子 講師*
英語分野	大沼 仁美 助教*

※6

所属	担当教員
共臨床遺伝学科通基盤看護学講座	徳富 智明 講師
救急・災害・総合医学講座救急医学分野	小坂 未来 講師
救急・災害・総合医学講座救急医学分野	藤田 友嗣 講師
救急・災害・総合医学講座救急医学分野	中島 成隆 助教
救急・災害・総合医学講座救急医学分野	藤原 弘之 助教
救急・災害・総合医学講座救急医学分野	富永 綾 助教
岩手県高度救命救急センター	大間々 真一 講師
岩手県高度救命救急センター	小守林 靖一 特任講師

\* 6月1日、6月8日3限目担当

・教科書・参考書等

教：教科書      参：参考書      推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教※	チーム医療リテラシー 2021	全学教育推進機構		2021
推	臨床緩和ケア 第3版	大学病院の緩和ケアを考える会(編)	青海社	2013

・成績評価方法

講義と実習のすべてに参加することが求められる。ワークショップへの参加態度（40%）、レポート等提出物（60%）はルーブリックを用いて評価する。

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて4学部混成のグループによるワークショップ（以下WS）を実施する。WSは感染予防対策を徹底して実施し、実施形態・方法については状況に応じて適宜変更することがある。WSの課題達成プロセスについての評価は時間内にフィードバックする。各回講義の受講後は確認問題に取り組み、当日中にWebClassに提出する。シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、科目開講時に配布された教科書等を用いて事前、事後の学習を行うこと。各授業に対する自己学習時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。また、WSにおいて課せられたレポート課題はWebClassに提出すること。

多職種連携に関する意識と社会的スキルの変化を評価するため、アンケート調査を科目の開始時と終了時の2回実施する。

※の教科書は講義の初日に配布します。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC (Safari pro FJY-00014)	1	講義資料の提示
講義	書画カメラ・DVDプレーヤーセット（エルモ、東芝他）	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型PC（EPSON MR4800E）	1	講義資料の作成